

## 第374回放送番組審議会

1 日 時 2017年4月18日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者7名、欠席者1名 五大路子委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、二宮務委員、伊藤有壱委員、吉川知恵子委員  
tvk;中村社長、嶋田報道局長、遠藤報道部長、柳舘プロデューサー、近藤編成部長

### 4 議 題 (1)放送番組

資料:①4月のタイムテーブル

②4月～5月の特番一覧表

### (2)視聴合評

報道特別番組『僕の電気～東日本大震災から6年～』

2017年3月11日(土)19時～19時55分

### (3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2017年3月11日(土)～2017年4月14日(金)

・第373回(3月)放送番組審議会の議事報告

(「猫ひたプラス」2017年4月14日放送VTR)

### 5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2017年5月12日(金)「猫ひたプラス」(12:00～12:30)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

近藤編成部長

まだ五大先生がいらっしゃっていませんが、定刻となりましたので、第374回テレビ神奈川放送番組審議会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたしますします。

山田委員長

新しい年度が始まり、横浜の桜もすっかり散ってしまいましたが、各地で痛ましい事件事故が相次いでいます。これは事件事故ではありませんが、棟方志功の版画がカラーコピーと入れ替わっていると。それをしばらく気が付かず、気が付いても3年間、関係機関が探していたという、非常にのんびりとした出来事というんでしょうか、そういうものが起こっております。明智小五郎の怪人二十面相を彷彿とさせるような出来事で、この先どうなるのかちよっぴり楽しみです。それでは第374回目の番組審議委員会を始めさせていただきます。中村社長の方からお願いいたします。

中村社長

中村でございます。年度初めのお忙しいところを、ありがとうございます。神奈川新聞のあれは笑っちゃう感じがいたしましたが、それとはまったく別ですが、安倍総理とペンス副大統領の会談が始まったということですが、シリア、そしてアフガニスタン、北朝鮮、朝鮮半島に空母を寄せてくる。また発射直後に爆発したとはいえ、北朝鮮がミサイルを発射する。ある意味では非常に我々のすぐ近くで結構な大騒動が起こる可能性があるという部分では、今日は報道局長以下、報道部長も来ていますが。我々は外信を置いているわけではないのであれですが、もし何かあればという、大変沖縄に次ぐ事件、神奈川としては緊張感を持っているところです。何事もなければということはありませんが、これからもまずは韓国大統領選も始まったばかりですし、動きがなければいいなというふうに思っています。緊張感を持ってやっていきたいと思えます。本日もよろしくどうぞお願いいたします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは本日の議題に沿って進めてまいりたいと思

います。まず放送番組について。お手元の4月のタイムテーブル、あるいは4月5月の特番一覧表を参照していただきながら、事務局からお願いいたします。

近藤編成部長

はい、それでは4月のタイムテーブル、お手元にご覧いただけますこちらの方から紹介させていただきます。表紙は「関内デビル」です。前回もご紹介させていただきましたが、4月からの新しい音楽情報バラエティということで、4月3日月曜日から開始になっています。4月3日月曜日のツイッターをずっと見ていましたが、日本全国の第3位まではツイートランキングが上がっておりますので、なかなか話題性が持てるんじゃないかなと確信しております。その後もその週は大体20位ぐらいまでツイートのランキングに上がっていましたので、地方局の番組としては、かなり話題性があるのではないかなと感じております。そして裏側にはベイスターズがあります。今シーズンは4月4日、本拠地開幕戦の巨人戦から中継を始めております。巨人戦は18時からSV2チャンネルというサブチャンネルを利用して、開幕戦前のオープニングセレモニーを15分間オンエアしまして、18時15分から試合を中継させていただきました。この日はプレイボールが18時30分だったんですが、毎年恒例のスタンプラリーで、データ放送を利用してスタンプラリーをやって、皆さんから応募してもらってプレゼントするんですが、その時が3,000弱ぐらいの応募がありまして、これが過去最高です。やはりまだまだベイスターズはこれからも人気が出てくるなど。巨人戦ということもありましたが。その後の三連戦のうちの2つ、今週末にまたございますので、是非見ていただければと思います。表の方「関内デビル」側からめぐりまして、「関内デビル」と「吉田山田のドレミファイル」「ミュートマ2」と音楽番組がリニューアルし、出だし好調です。「ベイスターズナイター」の下の「キンシオ」は、今週末に「キンシオ the DVD 20号に行く」を

販売いたします。5月の視聴合評番組は「キンシオ」になりますので、是非月曜日23時にご覧になっていただきたいと思います。そのあと「しゃかりき！」「Up To Date」と紹介しています。タイムテーブルをめくっていただいたところが、「トモダチゲーム」。これは製作委員会方式で、キングレコードさん関係でやっているドラマで、全4回で6月に映画化になっています。もともとコミック原作ですが、吉沢亮君が主演で、アミューズの中でも非常に人気があります。その前に完成試写披露会というものには1,000人ぐらいの方を集めて、非常に盛大な完成試写披露会でした。その次に「ウルトラマンシリーズ」ということで、「ウルトラマン」が今年50周年ということで、ウルトラマンシリーズを円谷さんの方と一緒にやっております。その後25時台はアニメのベルトということで、この4月編成やっておりますので、その紹介です。特番の一覧がありますが、「ノジマチャンピオンカップ」「Spirit ベルマーレTV」「川崎競馬中継」などをご紹介しています。4月のタイムテーブルは以上になります。続いて4月5月特別番組一覧のご紹介をさせていただきます。4月23日19時55分から「ポール・マッカートニー GOOD EVENING NEW YORK CITY」。2009年ポール・マッカートニーのライブ映像になります。4月25日から来日公演ということで、4月23日に編成しています。4月25日武道館、4月27日から30日が東京ドームということで、tvkが後援に入っています。余談ですが、武道館のアーナ席が10万円、東京ドームのセンターサークルも5万円という結構高額なチケットですが、東京ドームは午前中ソールドアウトになっているそうです。4月29日土曜日、日曜日と、先ほどもご紹介させていただきました「ノジマチャンピオンカップ 箱根シニアプロゴルフトーナメント」。こちらは今週末箱根カントリー倶楽部で行われますノジマチャンピオンカップを、BS-TBSがこの日にオンエアされますが、1週間遅れでtvkでもオンエアします。4月30日「焼

津みなとマラソン」。こちらも毎年恒例ですが、4月9日に第32回を迎えた「焼津みなとマラソン」を静岡第一テレビさんから購入させていただいてオンエアいたします。5月3日「ザよこはまパレード」、これも毎年恒例になります。今年では全体で64団体、3,572名の参加だそうです。昨年が3,382名とのことですので、若干増えていると聞いております。この10年もちょっと聞いてみたんですが、大体3,500人前後参加しているそうですので、ちょっと一時期「よこはまパレードどうかな」と思いましたけど、ここ数年は盛大にやられているということです。5月12日に「ノジマ デジタル一番星ナイター放送直前情報」。こちらでも昨年に引き続きノジマさんにご提供をいただいて、ナイターの直前2分ですけれども、ナイターの放送直前情報をお送りします。5月26日金曜日20時からの「ジャポニズム幻想曲(ファンタジア)～TSUKEMEN 新たなる船出～」。

TSUKEMEN というアーティストさんたちがいらっしゃるんですが、毎年神奈川県で公演をしています。今年7月29日に神奈川県立音楽堂で公演をしますが、チケットの取り扱いが関連会社のtvkコミュニケーションズでございまして、その紹介でチケットの販売につながればということです。5月28日、これも先ほどご紹介させていただきましたドラマの「トモダチゲーム」映画公開スペシャルということで、ここで映画のあおりをしていければと考えております。4月5月特別番組一覧は以上になります。

山田委員長 はい、ありがとうございました。事務局から4月のタイムテーブル、4月5月の特番一覧表について説明がございましたが、これについて何かご意見、ご質問等がございましたら。

吉川委員 5月12日、2分間の「ナイター直前情報」というのは、この1日限りの2分間なんですか。

近藤編成部長 この日はノジマさんの冠ナイターで、その直前にノジマさんにご提供をいた

だいて「見てね」という。

中村社長 レギュラー編成は 18 時半からなので、その手前、特番扱いです。

吉川委員 ああ、意味がわかりました。ありがとうございました。

山田委員長 他にございませんか。ないようでしたら、2 番目の視聴合評に移りたいと思います。「東日本大震災から 6 年」ということで、非常に大作ですので、委員の皆さんからいろいろな意見が出るかと思しますので、この視聴合評にちょっと時間を使わせていただきたいと思います。

近藤編成部長 それでは今日は報道局長の嶋田と、報道部長の遠藤、そして番組プロデューサーの柳館が同席しておりますので、視聴合評のダイジェストをご覧いただいてからご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 視 聴 合 評

山田委員長 ありがとうございました。それでは委員の皆さんからご意見を頂戴する前に番組制作を担当されました報道の方からお願いします。

嶋田報道局長 報道局長を務めております、嶋田と申します。座って失礼させていただきます。こちらは3月に放送しました。6年前を振り返りますと、私も当時報道部長として東日本大震災を迎えました。当日皆がそうなんですが、私も経験したことがないことを踏まえて、様々な報道活動をやってきましたんですが、やはりそこから我々としてはいかに伝え続けていくかということが我々の役目になっていくだろうと。そして「神奈川の報道機関だからこそできることはなんだろう」ということを考えながら、これまでも特別番組やニュースの中の特集コーナーなどで取り組んでまいりました。そして今回6年を迎えるというところで、柳館ともう一人のスタッフを中心にやってもらったんですが、今回は半年以上前に「電気をキーワードにやりたい」と言われました。私は報道局長という立場ですけ

れども、3月11日に報道の部門で携わったことがない人間がほとんどなんです。これは他の報道機関、テレビ局なんかもそういうふうに使っています。やはりその中で新しい若い人間の目から見て、どのように取り組んでいくのかというところも、私としても確認したい。「じゃあ、そういうふうに使えば、頑張ってみなさい」ということで、取り組んでもらいました。やはり通常のニュースを毎日放送していく中で、厳しいこともあったと思いますが、こういう形で番組として放送してまいりました。こういうドキュメンタリーの場合は、何か足りないことなどがたくさんあるかと思いますが、こういう場で皆様からご意見をいただきまして、その意見を元に、また次の報道マンとして育っていく、大きなきっかけになると思いますので、今日は様々にご自由な意見をいただけますと、私としても非常にうれしかと思いますので、よろしく願いいたします。

山田委員長

はい、ありがとうございました。それでは委員の皆さんからご意見などを頂戴したいと思います。ちょっと所用があって途中でお席を立たれる吉川さんの方から。

吉川委員

すみません。「僕の電気」という、まずこのタイトルのキャッチコピーさというか、非常に印象的なもので、どんなものなんだろうと、まずそこで考えさせる、非常にいいタイトルであったし、最後のエンディングでも「僕が支えていこう、僕の電気を」ということで結んでいるのは非常にいいメッセージだなと思いました。内容としては非常にいい視点からとらえられていたと思いますが、注文を言えば、いくつか番組の流れが行きつ戻りつして、本当に伝えたいメッセージがちょっとぼけてしまったり。この番組についてはなんとなく出したのはわかるけど、出さなくても良かったのかなというものがあります。まずひとつは、今も避難生活を余儀なくされて苦しんでいらっしゃる村田さんとか、お

母様松本徳子さん。この方たちの声というのはリアルに、こういう方たちの犠牲の上にといいか、そういう犠牲を起こしてしまう危険な原発に、寄りかかってきたんだということを思い起こさせてくれるという意味で、生の声はすごく大事なんですが、それが分断されて出て来て。ちょっとそこはどうなのかなと。それから特に線量計で今の方が下がっているとか、さらには「廃炉が大変で、これだけ深刻なんだよ」ということを伝えるのにはいいと思うんですけど、福利厚生が進んで社員に食堂ができたとか、そういう話は、この番組には入れなくていい画像じゃないかなと。もちろん廃炉に向けて大変な作業をしてくださっている作業員がいるよ、という意味だったのかもしれませんが、余計なメッセージが途中途中に入ってくると本当に伝えたいことがわからないから。恐らくこの番組が私たちに伝えてくれようとしたのは、皆が一人ひとり自分の生活を見直して、すぐに便利に、自分たちの身の回りが回復したら遠くの出来事になっちゃったと村田さんが言っていましたけど、そうじゃなくて忘れないで思い返し、自分たち一人ひとりが自分のライフスタイルを見直して、電気をタダではない、電気がどうやって生まれて来るかということに思いを馳せようよというメッセージ、その使い方の問題がひとつだと思うし。再生可能エネルギーとか、エネルギーの電源の問題についても、もっともっと原子力に頼らないエネルギーを開発していかなきゃいけないよねという、2 つぐらいの方向性があると思います。その時に情報として、じゃあ震災が終わった後、電気の消費量はどうなったのか、実際に。3.11 の後みんなが節約をしたけど、増えたのかとか。そういう、報道番組なのでデータがほしかったなど。それは今、東京電力が賄っている電気量に対してどのぐらいなのか。夏場のピーク時はどのぐらい払底しているのか、していないのか。たとえばよくあることかもしれませんが、スマホとかみんな電気を惜しみなく使ってしまうわけですよ。



スマホが普及してきたことよっての電気の消費量とか、電気に頼る生活で、近年の電気量の推移はどれぐらいなのかとか、そういうことから使い方について思いを馳せようよという時に、もうちょっと説得力が出て来るのではないかなと思いました。あと再生エネルギー、明治大学の先生が「無駄遣いをやめないで再生可能エネルギーに走るのも問題で、エネルギーは万能じゃないんだよ」というメッセージが出ていたのに、そのメッセージが先にありながら、散々「再生可能エネルギーの比率を高めていこう」という目標の話ばかりが、後半にたくさん出てくると、「これは明治の先生の訴えかけが、どこに結びついていくの？」ということが分かりにくくなってしまふ。たぶん「使い方の部分も見直していかなければだめなんだよ」というメッセージだったり、その奥には、ひとつの再生可能、ソーラーパネルばかりに頼るんじゃなくて、いろんなものを考えなきゃいけない、ということかもしれませんが、その先生のメッセージが、ちょっと意味づけがわからなかった。それから本当のことをいっちゃうと、太陽光パネルだっていろいろな問題をはらんでいて、工事の瑕疵の問題とか、いろんなトラブルも起こっているはずで、万能じゃないという意味では、本当に太陽光は、ここでは素晴らしい追尾式のあるとか、いろんな研究も発表されていましたが、太陽光が本当に万能なのか、困ったことはないのかとか、そこら辺をもうちょっと教えてもらえると、私たちがもっと使い方を見直そうという意識づけになるのかなと思いました。ただ最後、横浜港の夜景は美しいだけに本当に象徴的で、観光都市横浜はこの姿を持たなきゃいけないけど、でもやはり使い方も見直していかなきゃいけないし、電源にも思いを馳せないといけないという意味では、非常にメッセージ性がある画像で、私はあの画像の持つ意味は非常に大きかったんじゃないかなというふうに、この問題はそんなに一朝一夕、簡単に片付くものではないということを感じる絵ではない

かと思っただけ見ました。ありがとうございました。以上です。

山田委員長 いつもでしたら委員の全部皆さんが言ってから、出た質問にお答えしていただいたり、もちろん反論があっても結構なんですけど、今日は吉川委員が中座しますんで、今のことでいくつか質問がございました。「これは制作上、こういうふうにしなかなければならなかった」という反論などでも結構ですので、ちょっとキャッチボールをしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

柳館プロデューサー この度はご覧いただきありがとうございます。番組を担当させていただきました一応ディレクターなんですけれども、柳館です。貴重なご意見をありがとうございます。私どもも、万能じゃないというところとか、課題の面をもっと伝えていかなければいけないなということ、常々感じながら作っていたことは事実で、おっしゃる通りかなと思います。ただ基本的に今回のスタンスとして、「再生可能エネルギーはいいよ」と、確かに全面的に押し出してしまった感はあるんですけど、そろそろシフトしていかなきゃいけない、考え方を変えていかなきゃならない、今こういう動きが実際に出ているというところで、意識づけをしていきたいなというところで、課題の面はもちろん足りなかつたなという部分はあるんですけど、そこを全面に出した形になります。あまり答えになっていないかもしれませんが。

山田委員長 いかがですか。

吉川委員 あと、さっき言い忘れましたが、福島から神奈川へあんなにたくさん電力が来ていたんだというところが、テレビ神奈川さんとして入れてくれたところが、非常に私たちも見る側として説得力があつてよかつたなというふうに思いました。

柳館プロデューサー 地元客としてというか、これまで電力の恩恵を受けていた身として、やはり神奈川で伝えるということは、やはりこういうことを盛り込んでいかなければいけ

ないなということで、これだけは絶対にはずさないようにしようということだったんですが。やはり細かい、例えば福島第一原発で作った電気が実際に神奈川県にどれぐらい来ているのか、そういった細かいデータがないというか、計算できないということだったので、なかなかダイレクトに伝えられなかったなということがあったんですが、そこが、それもそれで事実なのかなということ。

山田委員長 日常の取材活動の傍ら、この番組のためにどのぐらい取材期間はとられたんですか。

柳舘プロデューサー そうですね、特番に特化したということだと、2～3ヶ月。2017年になってから。

山田委員長 今年になってからですね。

柳舘プロデューサー これまでも、それこそ計画停電のときですとか、村田さんは2014年の頃とか、そういう積み重ねはあったんですけど、特化したのは1月ごろから力を入れてということ。

山田委員長 ありがとうございます。続きまして林さんお願いします。

林委員 こんにちは、ご無沙汰しています。原発事故で原子力発電の依存を低めようとか、安全神話が失われた、そういった認識の下でこういった番組を作る、電気を無駄にしないという、そういう企画は非常に良かったと思います。多面的な取材をなさっていて、それも非常に良かったと思うんですが、多面的な取材をするのであれば、もうちょっと時間をとっても良かったのかなと。というのは、私は前にもこういった企画のときは申し上げるんですが、今回は4つの分野で成り立っていると思います。ひとつは被災者の生活、それから国の原子力政策、それからF1の現状、廃炉に向けた取り組み、それから最後にエネルギーの地産地消という4つの話で構成されていると思うんですが。たとえばエネルギーの地産地消と被災者の話を1本で1時間にする。国の原子炉

制作とF1の現状を1本にする。F1の現状というのは非常に、この番組でちょっと触れられましたが、ちょっとということあまり良くないと思うんですね。燃料デブリの話が出てきましたが、あれでもって1時間とってもいいような話なので。それを1時間でやってくださいよ、という押しつけがましいことはいませんが、せめて取材をされたのであれば、行っていらっしゃっていますよね。そうであれば、「上・下」でもよろしいので、「下」の部分で国の原子炉政策とF1の現状をまとめると。そういうふうにしたらもうちょっと我々の理解度が高まったのではないかなと思うんですね。1つはまず被災者の話、村田さんと松本さんの話。良く取材されていて、村田さんが「我々の犠牲も、再生可能エネルギーの普及のためであれば我慢できます」というようなことをおっしゃっていましたが、そのコメントが申し訳ないけれども、見終わった後に雲散霧消した感じ。バラバラというか、非常に間口が広がったせいじゃないかなと思うんですね。それとエネルギーの地産地消の問題。いろいろありましたね、黒岩さんが行かれた鎌倉の話とか、茅ヶ崎の話、小田原の話。4つか5つかと思いますが、あれをセットで放送していただければ、非常にわかりやすかったと思います。どうせだったら、黒岩さんの方の太陽光パネルの話はどうなっているんですか、という話もしてもらえればよかったのかなと私は思いますけど。それは番組の趣旨と違うということであれば、それはそれでいいんだけど。再生可能エネルギーも太陽光だけではなくて、バイオもあれば、地熱もあれば、風力もあれば、いろいろあります。あまねくやれば虻蜂取らずになる可能性もあるんですが、太陽光ばかりにあまりに特化していたんじゃないかと。地熱も神奈川はあるわけで。バイオはさほどではないかもしれませんが。そういう意味で地熱ぐらいには言及してほしかったなという気がします。それから福一の話の中で東電の方が話をされましたが、私はちょっと違和感を感じました。彼

が「エネルギー問題というのは、国民一人一人がライフスタイルも含めて考えるもんだ」というのは、もちろんその通りなんですけど、「あなたにそれをいわれたくないよ」ということを感じました。その前後で非常に長い取材をされていて、そこだけ抜き取ったので、そういう印象を受けたのかもしれませんが。もうちょっとコメントのしようがあったのではないかと思います。正直いって私も2〜3回伺っていますが、燃料デブリの取り出しを含めた廃炉の動きというのは、とにかく30〜40年かかる話なので、そんな右から左へ語れる話ではないと思いますが、それにしても、東電の方にああいうことをいわれるというのは。私も「ちょっと待ってよ」という気がしないでもなかったです。もうひとつ、明治大学の先生が出てみえましたよね。「原発はなかなか止めにくいものだ」とおっしゃったし、もうひとつは「再生可能エネルギーにも問題がある」とおっしゃいましたが、それが尻切れトンボになってしまって、その問題姿勢ですよ、彼のいっていることの意味が、この番組で、先ほど先生もおっしゃいましたけど、どんなあれを番組の中に影響をもちえたのかというのがちょっとわからなくて。そうであれば再稼働のあり方とか、そこに踏み込んでまで先生にいつてほしかったし、もし再生可能エネルギーの問題点があるとすれば、「こういうことがあって、どうだこうだ」ということを、時間の問題もあつたでしょうけれども、もっと語ってほしかったなど。全体的に長くなったのもう切りますが、多面的な取材をやったんであれば、もっと時間をとって放送をしていただければ。もったいないなという気がしました。企画は非常に良かったと思います。以上です。

山田委員長

今いろいろ意見、質問等が出ましたが、これからは最後に。重複する部分もあると思いますので、最後にみなさん方の方から反論でもなんでも結構でございませうので、いつていただければと思います。では伊藤さんお願いしま

す。

伊藤委員 大変深く深刻なテーマを 45 分ぐらいの、1 時間でしたっけ。

嶋田報道局長 55 分です。

伊藤委員 非常に密度がある。熱量がある番組だと思いました。その熱量がいい意味でとても印象が良かったです。その印象の良さというのはもう一つ問題をはらむわけですが、まず番組そのものの作り方として、ナレーションの森川智之さんですか、そのセレクトが非常に良かったと思っています。ベテランの声優さんでね、ユアン・マクレガーの声優さんとかもやっっているいろいろ活躍されていますけど、特に役者さんがそのカラーで語るとかではない匿名性と、静かな、でも熱量という、多分自分のミッションをわかっていらっしゃるような仕事をされていること。あとディレクションをされた柳館さんが、変にヒステリックにならないで、でもその分、情報量と熱量を感じるということで、番組としてとてもいいなと感じました。やはりそれを見ながら感じたのは、とても手におえるテーマの量ではないというところを、時間の中に収めるために、より深く突っ込む、その突っ込みどころみたいなのところという、あともう一步痛みを伴っても構わないけれども、やはり深く突っ込んでも十分いいのでは、という印象を持ちました。それと番組の作りから起き上がってきたのは、今回の番組で扱っているモチーフは、もちろん神奈川県の記事ですから。福島と神奈川という県、それから民間が取り組んでいるという様子がしっかり描かれていたのがとても良かったんですが、やはり国ではなく、東電の上層部でもなく、そのあたりが向こう側にあるという。でも県だったり個人だったり民間が、できることをやって前に進むという強い意志は感じられたので、強い意志の民間レベルの方の具体例で実感できたのは良かったです。やはり私も再生可能エネルギーはソーラー以外の実例があれば見たかったというのは、皆さんおっしゃったとおりです。

最後に、個人的にやはり映像の力を気にしながら見ていたんですが、過去の災害当時の映像、それから 2017 年にロボットが入っていったけど、すぐ故障しちゃった、つまり役に立たなかったという、そういう心細いいろいろなことを映像が非常に物語っていたので、そういったものを多用していただいたのは、やはりテレビとして良かったと思いますし、私自身が大学院で映像を教えている流れからいえばアニメーションというジャンルではありますが、そのテーマというところへの切り込むアプローチとしては、是非大学院生たちにも見せたいと思いました。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして白石さん。

白石委員

私は福島と柏崎、新潟の、両方行きました。その時は原子力の脳天の防御。「北朝鮮含めて、攻撃したときに防御できますか」と聞いたら、「できない」といっていましたね。その時に福島の電源を何で高台に置かなかったのかということが、当時いわれていたんですね。そこにあれだけの人たちが何で地べたに電源モーターを。高台になんで置いておかないのか。あればああいう事故は起きていないといわれていましたよね。そんな国だとか東京電力とか、とてもじゃないが信頼できないと思った。福島、気の毒だよ、まだ帰れない。私が生まれたところは電気が通っていませんでしたので、ろうそくとかカンテラとか、そういう生活をしたんです。電気がパッとついたら明るいし、自分たちの人生が薔薇色に見えるように、電気というのはそういう効果があったんです。だんだん日本が経済成長していくと、日本の炭鉱が閉鎖されて、エネルギーを原子力発電にシフトしていくわけです。私は原子力発電が夢のようなエネルギーなんで、賛成していたんです。だけどあの事故で、何をやっているんだと。国も東京電力も。そういうことを、この番組を見てなおさら頭にくるという番組でした。これから火力が。昔のようなモクモクという煙はありません。あれは

水蒸気だけで粉塵は出さないんです。だけど我々が聞いた、石炭は行きつくと。したがって原子力発電は必要だと我々はそう思いました。だけど一回事故を起こしたら大変なことだと。チェルノブイリはひとの国ですから。見たこともないし。いまだに入れない。福島はああいう感じなんでしょうね。今は作業員が入っていますよ。一生懸命やっています。これから日本あちこちに原子力発電所がありますが、北朝鮮が危ないから、あそこへボンと打ち込まれたら、日本は壊れちゃいます。原発を打っておけば日本はつぶれちゃう。そういうふうに怖いな、はっきりしてもらわないと困るなと思います。今の現状の電気について再生エネルギーは非常に大事だと思いますが。黒沢知事に「神奈川県に4年間でパネルをやる」といったけど、すぐ看板を下ろしました。そのぐらい難しいんです。再生エネルギーは15年で4.何パーセントでしょう。それを25~26に持っていくんですか。つまり原発の総電力を再生エネルギーで作ると。これもまた本当にやる気でののかと。やらなきゃいけないと思うんです。もっと力を入れてやってもらいたいと、見ながら思ったんです。そういうことを考えさせてもらった番組でした。ありがとうございました。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして二宮さん。

二宮委員

見させていただいた全体的な印象が2つありました。1つは、3.11の特別企画ということで、日常使っている電気を「僕の電気」という切り口で、神奈川県取材のベースにこの番組は制作されていて、多分自分の印象として、企画段階から相当気持ちを込めて制作したんだろうなという印象を持ちました。地方局として責任感を持って、プライドを持って作ったんだなという印象を強くしました。タイトルに「僕」という言葉を使っていました。多分、「震災を忘れない」というコンセプトではあるんだけど、悲惨な映像じゃなくて、それをあまり使わないで、どういう印象で全体を作るのかと、そこは興味を持って見ました。



それから、先ほど報道局長が述べられたように、「これからの電気をどうしたらいいんだろう」というようなコンセプトで作ったと。やはり先を見据えた視点で番組を作られたということで、表現が正しいかどうかわかりませんが、悲惨とかかわいそうとか、そういうものから、先を見据えて震災を考えていこうということで作ったんだなと思いました。個別の内容をいいますと、インタビューの言葉が自分にとって非常に印象に残ったことがいくつかありました。明治大学の准教授の「原発は一度稼働すると、止めることが難しい」。避難者の村田さんという男性の方の「ふるさとを思うと涙が出ちゃう」ということ。松本さんという女性の方の「少しずつ昔に戻していくことがいいんじゃないか」と。ああいうそれぞれの言葉、個人の言葉としてテレビで非常に印象に残りました。やはり基本コンセプトに「向き合う」ということをいわれていましたが、向き合うことは必要だなと思いました。ただ残念なことは、東電の現地で説明する方の、「この問題は東電だけの問題じゃないんだ」といったのがあって、自分としてはあの言葉は結構違和感がありました。反発を覚えるというか、半分他人事みたいな、そういう意味はないと思いますが、そういう印象を受けました。あとは分散型の電力、エネルギーネットゼロとか、休耕田のソーラーですとか、市民によるものなど、私も東電の方といろいろ仕事をしますが、彼らも太陽光発電は万能じゃないということは結構いってまして。そういう意味では、分散型電源を取材した中で必ずそこはあったと思うので、そこを出すべきだったと思います。全体的に総括として、電気については今の神奈川では、さっきも誰かがおっしゃっていましたが、私は事務所から帰るときに、みなとみらいの電気のきれいなのを横目で見ながら帰るんですが、むしろ私の印象は「日本って回復したな」と思っていたんですが、それは私の誤りでありました。スイッチの向こうにはまったく復興には縁がない、復興なんてまだまだできない福島の

ことを改めて知る機会となりました。原発事故は日常無意識に使っているエネルギーや電気について、改めて電気というものを考えさせられるきっかけになりました。電気とは全く無関係ですが、最後ですが、日常仕事に追われてその日暮らしをやっていますけど、やはり自分で立ち止まって向き合うということが大事だなというようなことも、非常に強く印象に残った番組でした。ありがとうございました。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして布施さんお願いします。

布施副委員長

原発事故が起きたとき、実は私、横浜市大の学長だったんですが、もうどうにもならないぐらい大学が混乱してしまっただけで、たくさん行ってましたから。それから放射能汚染というのか、特に人体に関する放射能汚染がどういうものなのかということが、どこかのパンフレットには書いてあるけど、実際の医学部の現場で誰も知らない。にもかかわらず、たくさんの人たちが多分医学部で治療をしてくれるんだらうと押しかけた。で、どうにもならなくなっちゃった。どういことを希望しているのかと。どういう治療をすればいいのかと、まずは本人も聞いたし、まずは現場に行こうということで、若い人たちはどんどん福島というか、向こうに行ったんです。で、やり取りしている間に結局問題が大きすぎて、ひとつもアプローチできなくて、そして収束して答えが全然出ていないんですよ。今度は理系の方はもっと大きな問題が出ちゃって、原子力工学というものが、ある意味で確立しちゃって、東大でもなんでもそういう学部があって、そういう先生を養成しようとしているわけ。そうすると、「そういう学問の体系そのものが、意味ないんじゃないの」と学生が言い始めて。先生も困っちゃいますよね。「あんたのやっていることは意味がない」と言われちゃって。それで混乱が相当長く続いたんですが、だけど、はっきりいって答えが出る問題じゃないから。その後も私は任期が来て辞めましたけど。後輩の先生方も取り

扱うことができず、今は何もなくなっちゃった。あのときの疑問というのは、ある意味、文明批判的な疑問でもあったけど、どうなったのということなんです。やはり同じことで、電気に関連して発電とかいっていますが、そもそもそんなものは、「私たちの生活に電気が必要なんですか」という最後の疑問が難しい。大学ではお手上げになっちゃって、結論出ないままになっちゃった。多分、このテレビを見ていてもそうだけど、日本においても、現在あるいは将来の我が国の存在を含めて、電気というものがどういうものであるのかという結論なんてないまま、今はそのままいっていると思うんです、ひょっとすると「ちょっと待てよ」と。細かいことはいいけれど、これはすごく大きな、我が国にとってあるいは日本の文明にとって大きな問題を提起しているんだと。そのことをどこかで言ってもらいたかったなと、すごく思いました。ただ電気は商品として消費しているだけで、「電気料金を払えばそれでいいでしょう」みたいな。それだけだと、この問題は本当の意味で問題提起にならないと思いました。そこでやはり一段落ついたところで、もう一度「ジャーナリズムとしてはどうだったの」「もう一回考えてみようよ、難しい問題だけど」という提起がほしかった。となれば、番組を作成するのに、どこが問題で、どういうものをジャーナリズムとしては提起していくんだという、はじめの練り具合がちょっとあまり感じられなかったということで、私個人としては、番組としてはけなしていない。素晴らしい番組だと思うけど、個人としてはどこかこの辺では不満足な点が残るといふふうに思っています。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。それでは私からも、今年 3 月 11 日の日というのは、東日本大震災から 6 年経ったということで、いろいろな放送局で番組をやっておりまして、津波に襲われる田畑、あるいは町並み、そういった映像がのべつ幕なしに映されていく。そうした中でテレビ神奈川の「僕の電気」は、セ

ンセーショナルな映像からは一步引いたというか、この日を境に電気がどれだけ重要なのかということを訴えるドキュメンタリー番組ということでは、非常に良かったと思っております。「僕の電気は、自分たちで作る」というのは、これは今の防災で言われている「自分の命は自分で守る」、自助ですよ、これに相通ずるものがある、すごく本質的だなというニュアンスを感じました。それと「ソケットの向こう側が福島県なんだ」と。これは非常に気に入って、こういうことを書いて読者に、どうしても3.11というと非常に悲惨なイメージしかないんですが、そこからちょっとかけ離れて、そこで誰もが感じたことをこれからもテーマにしていこうということで。あの日は私も単三乾電池を買い求めて、あちこち右往左往した経験がありますし、計画停電なんかは6年前なんですけど懐かしい言葉でして。我が家は横浜刑務所の近くだったものですから、幸い計画停電にはならなかったんです。これは後で知ったことなんです。そういうことで番組を拝見させていただいたんですが、いくつか気になったことがあります。それは全体を通して、原発なのか、電気なのか、災害なのか。今一つ焦点が絞り切れていなかった感じがします。それと村田さん、福島県出身の方が横浜に、避難生活に来ているというのはわかりましたが、村田さんという人物像を、もうちょっと詳しくやっただけが良かったかなという気がしました。村田さんの人物像を通して、普段の生活を通して、電気というものを考えたらどうだったのだろうかという気がします。私は平成7年の阪神淡路大震災、被災後1週間で現地に入りましたが、本当に夜になると真っ暗なんですね。漆黒という言葉がありますけれど、本当に真っ暗でどこを歩いているのかわからない。本当に小さな懐中電灯のささやかな光でやっと足元を照らしていったという経験があります。今回のテーマの中で、電気が無いことによる切実さが、まだちょっと浮かびあがってこなかったですね。電気が途絶えて

人間どうなるのか。そういうことの切実さというものが浮かび上がってこなかった。それと原発を使わないソーラーパネルということで、これは確かに便利なようですけど、いろいろ資金もかかる。その辺のことも追ってはいたんですが、ソーラーパネルにしたかどうかという説得力みたいなものが、今ひとつちょっと私の見方では足りなかったような気がします。それは県知事が鎌倉のお宅へ行って話すというあれがありましたけど、あれは県知事は必要なかったと思いますね。むしろ取材班が行って、そのお宅のソーラーパネルの設置によるメリット・デメリットを聞き出すという方が、訴える力があつたのではないかと思っています。それと、先ほどの「自分たちの電気は自分で作る」。これは先ほどお話ししたように防災用語の「自助」ですよ。「自分の命は自分で助ける」。これに相通じるものがあるんですが、これは他の方も話していましたが、東電の人が「電気は国民一人一人の問題だ」という言葉をいっていましたが、あれはちょっと違うかと、私も違和感を感じました。国民一人ひとりの問題でしたら、今あちこちで問題になっている原発施設がどうあるべきか、というところに議論は飛ぶはずなんですね。それをしないで、国の方ではそれを全部抑えてやろうとしているということがありますので。電気は決して一人一人の問題では、意識としては大事ですが、それは東電の人が言うことはないと思っております。これはちょっとさっきの話と、いわゆる電気がなくなって悲惨さというんですか、深刻さというものが、あの中では浮かび上がってこなかったんですが、最後にきれいな夜景の映像、MM21地区を上から撮ったものがありましたが、あれは「電気があることによって、これだけ美しい街並みが見えるんだよ」ということで、それは一つのメッセージであるのかなと感じました。いずれにしても、1時間という長編番組を、普段の仕事をやりながらやっていたということでは、大変意義のある番組だったと思います。震災はこの後も日

本の場合は2,000という断層帯もありますので、こういう地震は頻繁に起こりますので、是非災害をテーマとした番組は作り続けていってほしいなと思います。以上です。言い足りなかったこと言い忘れたことがございましたら、よろしいですか。それではいろいろ反論はあるかと思いますが。

柳舘プロデューサー では私の方から。皆さん貴重なご意見を本当にありがとうございました。この問題がいかにか大きく、そして逆に身近であるかということ、さらに今日改めて感じました。皆さんがおっしゃっていただいたように、「僕の電気」というタイトルのところでは、個人レベルで考えていこうということ、悲惨な映像があまり出なかったということですね。6年経った今、前向きに今後どうしていったらいいかということを考えていこうということ、それを軸に置いて、テーマに置いてやってきたので、そこを評価していただいた点はありがたく思っております。ソーラーパネル以外の地熱もあるとか、ソーラーパネルの課題とか、実際どうなっているんだとか、そういったところにたくさんご意見をいただきました。本当におっしゃる通りだと思います。今回、県知事が来たり、小泉さんが来たりとか、かなり映像的にも、それこそ知事が来るということで、「県が本気になって考えているんだぞ」というところで、そこを出していくところより伝わるかなというところもあったんですが、かなり太陽光に偏ってしまったのかなという点がありました。そこは反省かなと思っております。あと、東京電力の石崎さんの話ですが、私どもの編集がまた、よろしくなかったかなというところもあったんですが、実際に彼と話をしてみますと、やはり結構原発問題には当然のことですが、真摯に向き合っているなと僕は感じました。その上で、その彼がもちろん反省して、その上で「原発以外の電力というものも、国民みんなで考えていかなきゃいけないよね」という言葉を発したことに、その立場の人間の方がおっしゃったということで、最初に取材したときは去年だったんですが、ちょ

っと衝撃を受けまして。その言葉の意味をいろいろ噛みしめていたんですが、ちょっと今回の使い方は安易だったかもしれないなと思っています。東京電力の幹部、特に現地にいる人間がずっと見てきて、「原発以外のエネルギーもちゃんと考えていかなきゃいけないよね」「みんなで考えていきたいよね」という言葉を発したことは、結構意義があったのかなと考えておりました。あと「万能ではない」と、再生可能エネルギーも。これはもちろんのことです、その「万能ではない」という部分の掘り下げが足りなかったのは、確かにあると思います。ただ原発も含めすべてのエネルギーの政策に関しては、もちろん万能ではないということで、どれもメリット・デメリットがあるというところで、ちょっと前のめりになってしまったかもしれませんが、そのところでもうちょっと前向きにとらえていこうということで、触れるところが少なかったかなと思います。もうちょっと、たとえば「上・下」じゃないですが、もうちょっと時間を割いてやったらどうか、もうちょっと出す機会を増やしたらどうか、とおっしゃっていただいたことについては、本当におっしゃる通りだと思います。今回の特番の前に被災地の現状ですとか、原発について、それぞれ特集で単発でも短くは出したんですが、今回かなり貴重な映像もたくさん撮れましたし、取材のきっかけがかなり生まれましたので、今後もっと、これからもエネルギー施策について見直し等も進んでいくので、どうなっていくのか、そして県がどう進めていくのかということは、これから自分は注視してしっかり、皆さんを巻き込んで掘り下げていきたいと思っています。これはもう、自分の意欲次第でもあるかなと思っていますので、しっかり熱意をもってやっていきたいと思っています。以上、私の思いとしてはそのようなところですよ。

遠藤報道部長

態勢のことをちょっとお話しすると、さっき「3ヶ月ぐらい」と言ったんですけど、正直、「専任していいよ」というのは、おそらく半月ぐらいのものだったなと思

いまして。あとは、柳館も申し上げましたが、取材に行けば、実はその日のニュースのために、この番組用の取材でもあるんですけど、5分なりなんなり出すというのを繰り返して、1本まとめたというのがあって。そういう記者業務をやりながら、まとめてくれたというところだと思います。あと一ついろいろな思いが詰まった番組であるんですが、実はディレクターって出ていると思うんですが、今日プロデューサーに昇進しまして。もう一人女性のプロデューサーがいたんですが、ちょっとこの3月末に羽ばたいていかれ、tvkを卒業しました。その人間が、大体6年ぐらい報道の経験があり、柳館は丸3年にという。若いタックでやったんですが、番組制作のときは次のところが決まっていて、僕が横で見ていると、その女性が柳館に、自分が取材してきたものを託そうという感じでいろんな指導をしたり、これまでの取材のものを渡そうとしていました。そういうこともあって、結構ネタが多くなったというのと。あとは横串的には、やはり僕らの電気というのを支えている福島にもう一回思いを馳せると、それからどうするんだという流れだと思うんですが。おっしゃる通り1本1本、4本に分けていただきましたが、1本1本に対して本当に掘り下げる幅がすごくありますし、問題もありますし、1つ取り上げてもいろいろな捉え方とか切り口があるものですので、非常にその辺はどこまでストーリーを作っていくかということは、私も見ながら難しいなと思ったんですが。日常的にも特集なんかを出していきますので、恐らくそういうところでアンサーをしていってくれるんじゃないかなと思っています。

山田委員長

はい、ありがとうございました。委員の皆さんの方から何かございませんか。ないようでしたら、大変熱を帯びた意見がありまして、時間も残りわずかとなりましたので、3番目、その他報告事項に移りたいと思います。

近藤編成部長

ここにございます視聴者対応についてご報告させていただきます。3月11日



から4月14日金曜日までです。電子メールのお問合せは9,534通、電話は782件となりました。画面の方に「ミュートマ2」と「関内デビル」についても早速ご意見をいただいていますので、番組への注目度があるのかなと感じております。では第373回の放送番組審議会の報告です。

#### 議 事 報 告

近藤編成部長 審議会の報告なのですが、今まで第2週火曜日の「猫のひたいほどワイド」で報告していましたが、この4月から第2週金曜日の「猫ひたプラス」という番組で放送させていただくことになりました。申し訳ございません、ご報告が遅れてしまいまして。よろしく願いいたします。

山田委員長 視聴者対応について、何か皆さんからご意見ご質問等はよろしいですか。そうしますと、本日の議題はこれですべて終了しましたが、何か他にご意見等がございましたら。よろしいですか。では、事務局の方から。

近藤編成部長 お手元に「放送番組種別表」がございますので、これは4月と10月の番組種別の公表というものがございますので、目を通していただければと思います。そしてBPOの報告もお付けしています。次回は、5月16日火曜日の午後2時から場所はここ第1会議室です。次回視聴合評番組は、毎週月曜日午後11時からお送りしています「キンシオ」、旅バラエティをお願いします。放送が神奈川県秦野市をブラリすることなので、そちらをご覧ください次回視聴合評に臨んでいただければと思います。以上になります。

山田委員長 それでは、他にご意見等がないようでしたら、これにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。